

令和2年度第4回 新発田市地域公共交通活性化協議会 議事録

1 日 時 令和3年3月26日（金）午前10時～午前11時

2 場 所 新発田市役所5階 会議室502-503

3 出席者

委 員	所属団体・職名	備考
下妻 勇会長	新発田市副市長	
加藤康弘副会長	新発田商工会議所事務局長	
齋藤 亘委員	新潟交通観光バス（株） 新発田営業所長	
庭山奈津子委員	新発田市ハイヤー・タクシー協会会長	
武田 達也委員	国土交通省北陸地方整備局 新潟国道事務所計画課長	代理出席：計画課 企画係 高橋係長
高橋 秀典委員	新発田地域振興局地域整備部長	代理出席：道路課 服部課長
大滝 一仁委員	新発田市地域整備課長	代理出席：地域整備課 宮村課長補佐
小池 敦委員	新発田警察署交通課長	
小島 修委員	NPO 法人七葉理事長	
小野 孝男委員	新発田市自治会連合会	
渡辺 肇委員	川東地区自治連合会	
齋藤 啓一委員	松浦地区公共交通協議会	
佐々木凜太郎委員	国土交通省北陸信越運輸局 交通政策部交通企画課長	代理出席：交通企画課 土橋専門官
大田 尊博委員	国土交通省北陸信越運輸局 新潟運輸支局首席運輸企画専門官	
仲野 浩将委員	新発田地域振興局企画振興部長	
早川 英雄委員	日本労働組合総連合会新潟県連合会下 越地域協議会事務局長	代理出席：久志田特別 役員

事務局（市民まちづくり支援課）
渡邊誠一課長、太田貴輝室長、佐藤英美子係長、蒲木みゆき主任、 田中俊介主任

4 会議概要

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

3月も終わり、振り返れば、1月中旬の豪雪に始まり、その後も寒波が連続し、今期の冬は、特に公共交通の運行維持に苦慮した。その様な中、当市の公共交通を担っていただいている新潟交通観光バス㈱の齋藤委員、新発田市ハイヤー・タクシー協会の庭山委員、NPO 法人七葉の小島委員には、運行維持に大変頑張っていただき御礼を申し上げたい。

来週からは4月となり、新たなスタートの時期となる。人事異動等もあり、今日の顔ぶれでの会議も最後になると思う。私もこの3月31日で副市長を退任し、この協議会会長も新しい副市長にバトンタッチをすることになる。今年度1年間、円滑な運営にご協力いただき、あらためて感謝を申し上げたい。

12月の会議でも少しお伝えしたが、これまで長期に課題としていた当市における今後の公共交通の方向性について、松浦地区デマンドタクシーの実証実験を踏まえ、高齢化を見据えた「新発田版デマンド方式の運行手法」として、市長から1月下旬に当市議会議員の皆様へ説明し、記者会見でも公表したところである。のちほど方針について、事務局から報告がありますが、今後は、その方針に基づき、できるだけ早期に事業の展開を図っていきたいと考えている。

本日は、新年度予算の審議が主になっている。まだまだ油断できない新型コロナウイルス対策の継続、また、バス位置情報システムのエリア拡大やキャッシュレス推進事業などの新たな取り組みも計画している。本日もご助言やご意見などのご協力をお願い申し上げます、開会に当たっての挨拶とさせていただきます。

(3) 新発田市の公共交通整備の方向性について

取組の視点として以下の3点を設定

- ・高齢化が進む周辺地区の早急な整備
- ・地域で支える持続可能な公共交通の新たな仕組みの導入
- ・まちなか移動を支える公共交通の充実

市街地内はあやめバスの運行内容充実を図る。周辺地区については、松浦地区の3年間の実証運行から見出された運行方式を「新発田版デマンド方式」と名付け全地区に展開していく。新発田版デマンド方式とは、定路線の基本ルートを運行し、予約があれば基本ルート以外を迂回して運行するもの。小型ワゴン車両1台で1日4便を基本運行パターンとする。この運行手法を市内全域に広げて交通空白地域の削減を図る。全てのニーズに応えられるものではないが、交通弱者の方に対して一定程度のニーズに応えられるものと考えている。

○委員

年次計画を決める際、地区の優先順位を教えてください。

○事務局

基本的には年に1地区の整備を計画している。高齢化率ほどの地区も差がないが、現時点で路線バスやJRが運行していない公共交通空白地域や地域からの要望を相対的に勘案し、優先順位を決めた。一気に進めたい気持ちはあるが、地域とルートや停留所を協議しながら順番に整備をしていきたいと考えている。

○委員

まつうら号では定路線とデマンド路線を組み合わせたハイブリット運行をしており、問題なく運行できているとのことである。デマンドの停留所では予約制ということで定路線から離れた地区にも入っていくことになるかと考えるが、定時性の確保という点ではどのように進めて行く予定なのか。方針があれば教えてください。

○事務局

定路線から離れた地区まで入ると定時性の確保が難しくなるが、地域と協議し、松浦地区では少し深い地区まで入っている。導入の際、地域に説明をし、理解を得ながら進めていきたい。

○委員

日中の利用が少ないと説明があった。また既存のスクール専用バスは継続すると記載されているが、既存スクールバスを含めた検討をした上で、この方針になったのか。

○事務局

市街地循環バスを除き、コミュニティバスは一般の利用者とスクールの利用者との混乗方式をとっており、朝夕は混雑しているが、日中は空いている。菅谷・加治については見直しを行い、利便性が確保できない部分についてはデマンドで補完する手法を取っていきたいと考えている。川東コミュニティバスについても見直しをしたい。

(4) 議 事

○議長

まずは、本日の会議であるが、規約第9条第2項の規定により、過半数以上の委員の皆様から出席いただいているため、会議が成立していることをご報告申し上げます。

【第1号議案】令和3年度事業計画（案）及び予算（案）について

事務局から資料に基づき説明後、質疑に入る。主な内容は以下のとおり。

- ・重点取組はバスどこエリア拡大、キャッシュレス決済の導入、豊浦地域公共交通の見直し
- ・予算は令和2年度比で△4,979千円。松浦地区のデマンド乗合タクシーの減便及び予

約センターの集約により経費を圧縮。

○委員

利用者がバスの遅延状況を把握できることは利便性の向上に寄与すると考える。他の地域からも今冬の大雪でバスがどこを走っているのかという問い合わせが多かったと報告を受けており、バスどこのエリア拡充は良い取組であるため、進めていただきたい。また googleMAP やナビタイムの乗り換え案内に使用される共通データとして、GTFS 化を視野に入れて拡充をしていただきたい。

キャッシュレス化では IC カードと QR コードの導入ということで説明があったが、具体的なすみ分けは決まっているのか。

○事務局

キャッシュレス化の具体的な内容は検討中である。バスどこシステムと連動して通信を行うものである。利用者は IC カードとスマホアプリをそれぞれ選択でき、IC カードは高齢者に、アプリは高校生に多く利用していただけると考えている。コストパフォーマンスを考慮してシステムを構築していきたい。

○委員

一長一短はあると考えている。回数券に QR コードが印刷されており、運賃箱に入れると運賃箱内で読み取られるというシステムもある。今後、情報が入ったら提供したい。

○議長

先進的な事例があればぜひ提供をお願いしたい。

質疑終了後、議長から諮り、全員異議なく承認された。

【報告】

(1) 書面協議の結果について

令和3年2月24日付けで以下の事項について書面協議を行い、全ての委員から承認をいただいたことを報告。

- ① 新発田市コミュニティバスの運行内容変更について
- ② 市街地循環バス（あやめバス）外回りの運行ダイヤ改正について

5 閉 会